

右離婚候間別紙 裁判牒本相添 及 届出候也

年 月 日

復籍すべし家の戸主 某

右父 某  
右母 某

右

但しこの場合は離婚裁判確定後十日内に届出で

ねばなりません

▲朝顔の發育 八十八夜も過ぎ去つて朝顔種の蒔附けもこれからと云ふ處であるが今年は氣候も順當であつて發育も至極良好の見込、昨年よりも余程の大輪を咲かせる事が出来るであらう。  
▲雀の蕃殖力 は驚くべきもので只一番の者から十ヶ年後に二億七千萬羽以上の子孫を蕃殖するさうだ。

學校幼稚園のため

保育法の研究には古來の教育家就中フレーベルの教育説に論及するの必要あり

女子高等師範學校 中村五 六

保育法殊に幼稚園教育に就いては幼稚園を始めて作つたフレーベル氏の教育説に及ぶの必要あり、殊に同氏は幼稚園の元祖として、はやく教育改革者として、吾人の先輩が尊奉してをるのであるから吾人が、同氏の説を祖述し、之を批評するの必要がある。今若し、同氏の説を離れて新に研究せんとするは、番に同氏に對して敬意を失するのみならず、實際上不便の點が多くあつて智者の取るべき方法でない、故に、フレーベル氏の説を基礎と

し、尙後人の説を加味して論述することが自然の順序でわらうと思ふ、

まづ、説述の順序として幼稚園の起原について一言せん、抑もフリーベル氏が幼稚園を作つたのは事偶然ではない、古人のいへるが如く、事は成るの日に成るにあらずして、遠く溯りて、淵原する處がある、今、その幼稚園の原因が何處にあるかを索ぬるに、フリーベル氏以前に溯り、十六世紀中、ペーコンといふ學者が出で、教育上に一新紀元を開いた、氏は植物が外部の勢力如何によりて生長發達上に變化を來すの理にかんがみ、教育上指道の下にある小兒と、園丁の監理する植物との間に同様な關係ありとなし、小兒が境遇の勢力を受けて發達する植物の外界の勢力を受け發達するのと類似の關係ありと説明したのであ

る。

次にコメニウス氏はペーコン氏の説に感じ、直ちに之を教育學上に主張せしのみならず、更に進んで、小兒の教育の任に當るものは、其の母親を以て尤も適當なるのである、されども世の母たるものは、必しも、適當なもの計りとはいへない。假令、此母にして、學識と小兒を教養するの器能がありとするも、世の務に一身を委ぬるもの、とても兒女教養に全力を盡くすこと能はざるは、實際の狀況である。而しながら母が、其の子の教育に對し責任を負ふべきは、一定不動の理であると論結した。

コメニウス氏に次いで、ペスタロチー氏は、母がとても實際教育に當ること能はざるを以て、母の任務に代るべき或る特別なる施設の下に教育を施

すべきの計畫を立てた、是れ即ち幼稚園若くは幼稚學校の先驅である。

ペスタロッチー時代に歐洲に於ける教育の有様は記慮主義の教育が主であつた。我國でも維新以前は、難澁な書物について讀書させる位のもので、心意の發育を顧みなかつたやうに、歐洲にても記誦によつた教授法が盛に流行したのである。そこでペスタロッチー氏出で、直覺教授（實物教授ともいふ）を唱導し大に普通教育の改良を叫んだ今日我が明治の教育法も氏に則る處實に多く、一時ペスタロッチーの主義は我教育界を風靡するに至りしことありき。

されども、ペスタロッチー氏の説とても、其以上に改むべき點なしとせず、氏の説は眞理もあれば、亦缺點とする處少からざれば、之に反對若くは補

正を加へたるものが現れた。殊に氏の弟子なるフレーベル氏は此の主義方法上更に一步を進めて、人心の自然的法則と萬有普遍の理法とは全然同一なりといふことを確信し、之を教育上の基礎としたのである、即ち教育上の基礎は兒童の自發活動を啓發し之を適當に指導するにありと、是れフレーベル氏の考の一步進んだる所である。

且又、ペスタロッチー氏は兒童の教育は専ら家庭に屬せしむべしといつたが當時フヒテ氏は之に反し、兒童の教育は國家の責任であると論じた。然るにフレーベル氏は此の兩者の説を融合して、一種の教育場を創設せり、尤も氏は一八二六年に「人の教育」といふ書を公にし、次いで「保育法」を著し、氏の教育説を發表したが、實際の教育上の施設は千八百四十年に幼稚園の名稱の下に生出し

た。之れが世界に於ける幼稚園の嚆矢である。抑も幼稚園教育の考は氏以前に既に他の教育家の頭の中において、多少、氏の考案に類似のものがあつたが、幼稚園といふ一定の名稱によりて兒童の教養をしたのは氏の外にはない、之れ氏を幼稚園の元祖として仰ぐ所以である。

フレーベル氏は只に幼稚園の元祖たるのみでなく教育全般に於て成功したものと謂つてよい、即ち氏の表出主義は普通教育に於て他の教育家にゆづらぬ功績である、而して尙こゝに附言すべきは氏の幼児教育の方法即ち兒童を遊ばしめて教育する方法は古くより行はれてあつた。プラトー氏の書中にも、埃及の幼稚學校のことが書いてあるのを見てもわかる、即ち古昔より幼時教育の觀念が大學者の研究問題となり、漸次傳はりて、フレー

ベル氏に至り始めて大成したるものであるから、其起原はフレーベル氏以前に溯りて論ずるとするも、幼稚園を設け、實地に幼兒を教育したるの點は氏に初まれりといふべし、故に幼稚園教育に關しては、フレーベル氏の教育説を基礎として、批評的に論究するのが最も便宜であつて、氏を尊敬する所以であるされども氏の説にも多少缺く處なきにもあらざれば、今日之を取捨するは最も必要のことであると思ふ。

▲今夏の衣裳 例の如く元祿式と桃山式が流行で色合は先づ葡萄、小豆、梅鼠などの赤味を帯びたのであるが藍氣の勝つた色合即ち花田色、納戸色、深草色の如きは本年の新流行。